

# 箱根組ニュース

第286号 2016年 9月号

編集発行人 戸丸悟

箱根組は自然を大切にします！  
各自保険に入って山に登りましょう！

## 台風をかわして伊東の海と温泉を満喫！ 鈴伝壮の温泉、佐八の料理、花季の海鮮丼に大満足！

8月20日、土曜日。東京駅発8時38分の熱海行きに乗車。熱海で10時35分の伊豆急下田行きに乗り換える。南伊東駅で西川夫妻が乗車して合流。

11時5分、2年ぶりに懐かしい川奈駅に降りる。降り立ったのは、西川夫妻、太田、星野（幸）、川名夫妻、奥村、及川、戸丸の9名。宿で合流の浮田とで今回は10名参加。

標高110mほどの駅前から海に向かって下ってゆく。帰りは110mの山に登ると同じだ。しばらく下ってゆくと大きな交差点。左に下るといつものルートだが、今回は少しコースを変更する。左の道を見ながらまっすぐ進んでゆく。コースが変わるとまた雰囲気も違う。

左に真つ赤な屋根の「ティールーム赤いやね」という店が現れる。海の見えるいい感じのお店だ。帰りに女性数人がここでお茶を楽しんだ。もう眼下には海が見えている。台風が近くにいるらしいが割と穏やかだ。初島や房総方面らしき景色も見える。いつも行くイルカ浜の特徴

的な形が見え、たくさんの人が海を楽しんでいるのが見える。

車道が右に大きくカーブするところから左に下ってゆく歩道を降りてゆく。昔からある海辺の町の生活道路だ。両手を伸ばせば家に手が届くほどの狭い路地は風情がある。7体ほどの地蔵さんを右に見て、どんどん下ってゆくと海沿いの道に出る。

少し南方向に泳ぐポイントがあるネット情報があったので向かってみる。小さな漁港とダイビングのお店がある。なおも進んでみる。波がなければスノーケリングにはいいポイントだが、やはり台風の影響で無理と分かり、いつものイルカ浜に戻る。

正午頃イルカ浜の砂浜に到着。たくさん親子連れや若い人で賑やかだ。

階段辺りに陣取り昼食。台風はどこへやら青空と強い日差しが照り付ける。日除けに傘をさしてお弁当を食べる。皆さんの持ち寄りでにぎやかな昼食になる。星野（幸）さん手製のいちじくの甘露煮



82円切手  
切手残数

144枚

|       |         |
|-------|---------|
| 現在の収支 |         |
| 繰越収入  | 32165 円 |
|       | 0 円     |
| 支出    |         |
| 印刷費   | 1000 円  |
| コピー代  | 400 円   |
| 現在高   | 30765 円 |

波は繰り返し押し寄せてきていた。入り江状の堤防のところでは魚が数種類確認できた。熱帯の魚らしきコバルトスズメ、や黄色い縦じまの小さな魚、黒い小さな魚の群れ。他にベラやハゼの仲間も泳いでいた。海を



は和菓子のようにとても美味しかった。冷たいブドウやその他の惣菜も沢山で早く海に入りたいがこちらでも捨てがたかった。12時45分頃、海に入る。入り江になっていたので台風の影響はそれほど感じなかった。それでも

一番満喫しているのは西川夫人。波打ち際でマグロよろしく横たわったり、海面で上を向いて浮いてみたりとても楽しそう。この日海に入ったのは、及川、太田、川名夫人、奥村、西川夫人、戸丸の6名。海に入らない川名さんはビールがだいぶ進んでいたようだ。下山ならぬ駅に向かって



集合 9月16日(金)  
新宿発 7時30分(あずさ3号に乗車)  
白馬着 11時28分

#### ●宿泊費用

(3泊6食弁当込み) 約3万2千700円  
(山頂個室代 22000円÷人数) 一人3千円位  
他、タクシー代、バス代3~4千円

帰り 9月19日(月・祝)  
白馬発 14時37分(あずさ26号)  
新宿着 18時34分

#### ●お申し込み・お問い合わせ

Tel・Fax/ 03-3521-6898 戸丸  
戸丸携帯 090-4541-7066

携帯メール: [satorutomaru@gmail.com](mailto:satorutomaru@gmail.com)

メール: [tomarusatoru@hotmail.com](mailto:tomarusatoru@hotmail.com)

箱根組ホームページ

<http://www.geocities.jp/hakonegumi1991/>

参加申し込み者(9月1日現在)  
神吉、有倉、三上、川名夫人、和田、及川、戸丸の7名  
●残り1名募集!

○持ち物 初日の昼食、軽アイゼン、防寒着、飲料水、非常食、カップ、雨具、傘、スパッツ、タオル、ハブラシ、着替え、ヘッドランプ(予備電池)、地図、筆記用具、救急薬品、(痛み止めスプレーなど)、健康保険証、ビニール袋、ちり紙(ロールペーパー)、予備靴紐、ライターかマッチ、ナイフ、ホイッスル、磁石、他

※9月16日(金)の昼食は持参。  
※軽アイゼン、防寒着(寒いようです)を用意して下さい。  
※9月16日(金)の昼食は持参。

次回は北アルプス・白馬岳(2932m)です。  
9月16日(金)~19日(月・祝)。

猿倉山頂より白馬鑑の予定ですが、大雪渓の状態によってはコースを白馬大池からのアプローチに変更します。

登山？ 標高110mの川奈駅に汗をかきながら登って戻る。女性数人はテールームに寄り道。南伊東駅下車で宿に到着。宿の前にはちよろちよろと温泉が出ている。手を入れると間違いなく温泉だ。浮田さんがすでに到着していた。一緒に2階の露天風呂に入る。いつ来ても気持ちのいい露天風呂だ。伊東線の電車の音が聞こえ風が熱い体を冷ましてくれる。

部屋に戻ってビールで乾杯するが、まだ5時。7時でお願いしていた佐八に連絡して6時開始に早めてもらう。

10名で川沿いの佐八に入る。お座敷で改めて乾杯。大ジョッキが本当の大ジョッキで大きい。お刺身、金目の焼き物、桜エビのかき揚げ等どれをとっても美味い。この日の一番はなんといってもアジの刺身だ。ショウガで食べるとなんともいぬ甘みが広がった。追加で注文する。

8時過ぎ、宿に戻る。もう一度露天風呂に入る。部屋で飲んでいたが泳いだ疲れかいつの間にか何の記憶もなく朝になっていた。

8月21日(日)、5時半ころ目覚め、3回目の露天風呂へ。

8時朝食。いつもながら何から食べるか迷ってしまうほどの品数。

9時30分、西川夫妻が到着し、宿の前の白い百日紅をバックに記念撮影。浮田さんは体調が今一つということ以南伊東の駅から帰途に就く。

残る9名は歩いて伊東のオレンジビーチに向かう。松川沿いに海に向かって伊東港方面に進む。陽ざしはまだまだ真夏だが、川沿いを歩くのは気持ちがいい。西洋朝顔の青い色が青空によく似合う。川にはカモの群れがいて、大きな錦鯉が悠々と泳いでいる。歩道沿いには洒落た欄干がありところどころに灯籠が付いている。大きなアオサギが川面を見つめている、小魚を狙っているのだろう。

川沿いのホテルをいくつか過ぎると左側に「東海館」が現れる。昭和初期に建てられた三階建ての和風の旅館で現在は宿泊は出来ないが伊東市の観光施設になっている。土日祝日は温泉に入ることができるようだ。川の柳越しに見る建物には風情がある。

河口に着く。右側はシュガーが何度か歌いに来た伊東市観光会館。ここで小休止。波は少し高いが青空の下海はきれいだ。

松川にかかる国道の橋を渡り、右にあるなぎさ公園を周回して景色を見る。とてもいいところだ。

少し北側が有名な海水浴場の伊東オ

レンジビーチだ。昨日の川奈のイルカ浜とは規模が違う。荒れ気味の海なのにたくさんさんの親子連れやカップル、若者のグループで賑やかだ。

一番手前の堤防の日陰に陣取り西川夫人、太田、奥村、戸丸の4人がさつき海に入る。波はかなり高いがまだ遊泳禁止にはなっていない。これは波を楽しむに限るということ。少し先の砂浜に行くと波に戯れることにする。波に身を任せていると飲み込まれて方向がわからなくなる。足がついていたと思ったら深いところに持つていかれる。大きなうねりが時々やってきて砂浜にたたきつけられるように押し返される。短い時間だが海と一体になることができた。ビーチの無料シャワーで海水を流し、公園のトイレで着替えて、お待ちかねの昼食。西川夫人が昨日から予約しておいてくれた、海鮮丼が美味しい「花季(はなごよみ)」に向かう。来た道を戻り公園から500mほど南に行った「波止場入口」の信号のところには店があった。静岡の生ビールで乾杯し、各々の3種の希望のお刺身を乗せた豪華な海鮮丼が来た。皆大満足だ。器もおいしい盛りもいいお刺身の量も大満足だった。1850円也。

伊東駅まで歩く、途中で西川夫妻とお別れ、本当にありがとうございました。



## ★白馬岳日程

9月16日(金) ～ 19日(月・祝)

北アルプス・白馬岳3泊4日

白馬岳日程。(3泊4日)

16日(金) 歩行1時間

朝、東京発、猿倉～白馬尻小屋泊。

17日(土) 歩行5時間

大雪溪経由山頂、白馬山荘泊。

18日(日) 歩行5時間

白馬三山の稜線～白馬鑓温泉泊。

19日(月・祝) 歩行3時間40分

猿倉から東京へ

## △行き

9月16日(金)

新宿 7時30分発 あずさ3号

白馬 11時28分着

## △帰り

9月19日(月)

白馬 14時37分発 あずさ26号

新宿 18時34着